２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

平成３１年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	地理Ａｂ	単位数	１	年次	１～４
使用教科書	高等学校「新地理Ａ」　（帝国書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

グローバル化が進み、一昔前よりぐっと世界が近づきました。しかし世界が近づいたからといっても「世界」を知らなければ意味がありません。この授業では地図帳などの基本的な見方や知識の定着はもちろん、諸国の様々な地理的、文化的特徴や生活を考察し、多面的なものの見方を養うだけでなく、広い世界で活躍できる「心」を作ることを目指します。
評価は出席、課題、定期考査で行います。

２　学習の到達目標

①生徒が主体的に学習に取り組む中で、地理的見方・考え方を見につける
②学習を通して、世界の各地域の成り立ちや特色を知り、国際社会への理解を深める
③現代世界の地理的事象を考察し、現代世界の地理的認識を養うと共に、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う
④世界地理を学習する上で、諸資料を効果的に地理の探求に活用することが出来る

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・世界の地理に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことが出来る。 ・地理を学ぶ中で、国際社会に生きる当事者としての自覚を持ち、能動的に考える態度を身につけている。	世界の地域の特色や諸課題について、歴史的背景などの様々な要素と関連付けて、多角的、多面的、批判的に考察し、その結果や過程を適切に表現できる。	・世界の各地域を理解するために、統計資料やグラフから、有用な情報を適切に読み取り、それらを効果的に地理の探求に活用することが出来る	国や地域によって異なる地形や気候、文化、産業などの基本的な知識を身につけている。 ・現代世界の地理的諸課題について地球的視野から理解し、その対策や持続可能な社会の実現について考察する
評価方法	・課題 ・定期試験	・課題 ・定期試験	・課題 ・定期試験	・課題 ・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	身近な地域の課題	・身近にあるさまざまな地図 ・日本の自然環境と防災 ・身近な地域の課題と地域調査	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○	 ○	a: 地理を学ぶ意義について考え、地理的見方や考え方について関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b:日本国の地理的特性等を踏まえた上で課題を考察し、適切に表現することが出来る c:日本国に関する地理的資料から有用な情報を読み取り活用することが出来る d:日本国の基本的な地理知識が定着すると共に、日本国の変容や実態、地域的特色などを理解する	課題 定期試験

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。